

モモのカイガラムシ類の防除対策

令和 7 年 4 月 30 日
福島県病害虫防除所

ウメシロカイガラムシの防除適期が平年より早まる予測ですので、タイミングを逃さないよう防除を徹底しましょう。また、ナシマルカイガラムシの寄生状況にも注意しましょう。

1 モモを加害する2種のシロカイガラムシ類について

モモを加害するクワシロカイガラムシとウメシロカイガラムシの雌成虫は、枝幹等に寄生して越冬します。防除効果が高い時期は、カイガラに覆われていない1齢幼虫期(ふ化定着初期)です。

2 防除適期の予測

アメダスの各地点の日平均気温により、ウメシロカイガラムシ第1世代幼虫の防除適期(ふ化盛期)を予測した結果、今後の気温が2℃高く推移した場合、3地点とも平年より2週間~10日程度早まる予測です(表、4月30日現在)。また、果樹研究所における第1世代幼虫のふ化盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、5月8日頃と予測されています(4月30日現在)。

表 ウメシロカイガラムシの第1世代幼虫発生盛期予測日(4/30現在)

| | 梁川 | 郡山 | 会津若松 |
|------|-------|-------|-------|
| 本年予測 | 5月8日 | 5月11日 | 5月13日 |
| 平年 | 5月22日 | 5月24日 | 5月24日 |
| 平年差 | -14 | -13 | -11 |

※本年予測日は平年より2℃高く推移した場合。起算日:1月1日(演算方法は平均法)C

3 防除対策

クワシロカイガラムシの防除適期は、ウメシロカイガラムシより5日~10日程度遅くなりますが、令和5年度「参考となる成果」により、両種を同時防除できる殺虫剤が明らかとなりました。本成果に基づき、アプロードフロアブル 1,000倍、モベントフロアブル 2,000倍、トランスフォームフロアブル 2,000倍のいずれかを上述のウメシロカイガラムシ第1世代幼虫の防除適期に散布しましょう(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/624632.pdf>)。

4 第2世代以降の発生について

昨年のウメシロカイガラムシの歩行幼虫の発生回数は、春期や秋期の高温により、従来より多い年3回でした(図1)。4月22日付け3か月予報によると、5~7月の平均気温が高い確率は60%であり、本年も第3世代が発生する恐れがあるため、第1世代の防除の徹底が重要です。

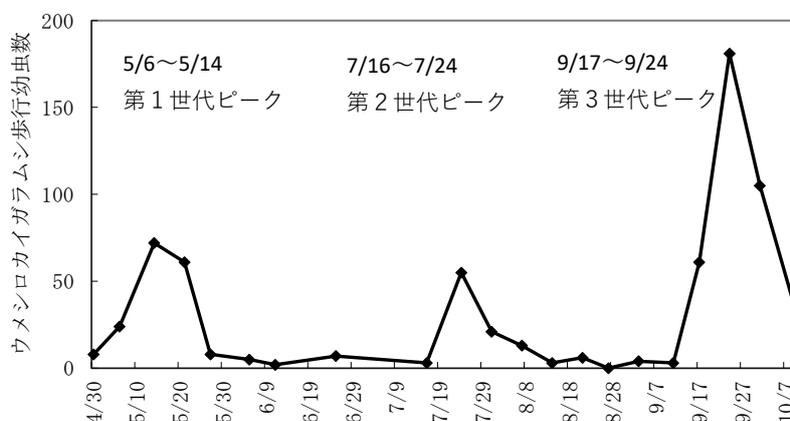


図1 ウメにおけるウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生活消長(郡山市)

5 ナシマルカイガラムシの発生について

昨年、県北地方の複数のモモほ場において、ナシマルカイガラムシの寄生が確認されましたが、本年も複数のモモほ場での寄生が確認されています。

本種は、枝幹部に寄生し樹液を吸汁するので、樹勢が衰え結果枝や芽の枯死が発生し、シロカイガラムシ類と同様に果実にも被害を及ぼします。山梨県では、2004年～2005年にかけて、モモでのナシマルカイガラムシの発生面積の拡大が問題となったと報告されており、本県でも今後のモモでの発生拡大が懸念されます。

ナシマルカイガラムシの介殻は黒色～灰白色をしており、発生を見逃しやすいため、発生状況をよく確認しましょう（図2～4）。シロカイガラムシ類の介殻は白色であり（図5）、両者を区別するポイントです。特に、リンゴやナシの隣接園では注意が必要です。



図2 ナシマルカイガラムシの骨格枝への寄生状況



図3 ナシマルカイガラムシの結果枝への寄生状況

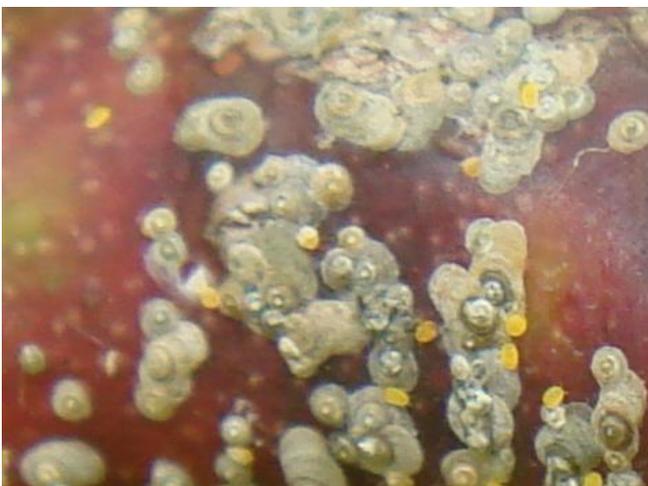


図4 ナシマルカイガラムシの雌成虫の介殻（灰白色）とふ化幼虫

※図2～4は県植物防疫協会提供。



図5 シロカイガラムシ類(白色)の寄生状況

● 情報内容への質問は、最寄りの農林事務所または福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>) でもご覧になれます。TEL 024-958-1709